

リウマチ・膠原病内科

a. 体制

(1) リウマチ・膠原病内科の目標

我々の科では個々の患者さんの直面する問題を真剣に取り上げ、分析し、十分な説明と同意のもとでエビデンスに基づいた最善の治療を行うことを理念とする。

リウマチ膠原病は同じ診断名でも患者さんひとりひとりで病気の活動後が違い、侵される臓器の種類およびその障害の程度が違います。また、患者さんの社会的立場も違います。患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。

患者さんのよきパートナーとなれるかが重要です。信頼できるパートナーとなれるよう努力します。「患者さんに問題点を見つけ、それを解決するために研究心をもって活動する」という原点のもと、臨床研究を実行する。

(2) リウマチ・膠原病内科の方針および展望

地域の先生方と連携を密として、大阪北地域のリウマチ膠原病医療の核となれるよう努力

する。これまで同様、京都大学臨床免疫学教室との臨床検討会および臨床研究を推進する。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。特に、新しい治療法の個人適応には充分のエビデンスの検討とインフォームドコンセントを得ることが前提です。

(3) リウマチ・膠原病内科の対象疾患

関節リウマチ/悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群（結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎など）、ベーチェット病、シェーグレン症候群、成人スチル病、リウマチ性多発筋痛症、などを対象としている。

(4) 教育

当院は日本リウマチ学会教育施設として認定されている。井村および高橋、中島、船曳は日本リウマチ学会専門医・指導医であり、日常の診療、定期的なカンファレンスを通じて研修医、学生の教育を行っている。井村は京都大学医学部臨床準教授であり、京都大学より教育研修を受け入れている。

(5) リウマチ膠原病教室の開催

2006年よりリウマチ膠原病教室を開催し、リウマチ膠原病疾患およびその治療に関する基礎的および最新の情報を患者さんに伝える機会を設けている。残念ながら2021年度は前年に引き続き新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。

(6) 院外活動および地域医療との係わり：

大阪バイオリジックフォーラムを2007年より開催し、生物製剤への理解を深める機会を作っている。2021年度は2022年1月15日に第15回大阪バイオリジックフォーラムをWebで開催した。

(7) スタッフ 2021年度

主任部長 井村 嘉孝

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医、日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 高橋 令子

医学博士

日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、日本臨床免疫学会評議員
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 中島 俊樹

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医・指導医・登録
ソノグラファー
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 船曳 正英

医学博士

日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医、
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 大橋 倫子

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 大北 莉奈（住友病院より連携研修として1年間所属）

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

b. 診療実績

(1) 外来診療体制 (2021年度)

当科の外来は予約診と初診・当日診の2診療制だが、土曜は初診・当日診のみとしている。受診者数は一日約55名であった。

(2) 外来診療統計 (2021年4月1日より2022年3月31日)

外来受診者数 (のべ数) 14,870 名、月平均 1,239 名
初診者数 974 名、月平均 81 名

(3) 入院診療実績 (2021年4月1日より2022年3月31日)

入院は主として全身性エリテマトーデス、関節リウマチをはじめとする膠原病に対して治療を行い、2020年度入院患者数は 330 名 (他科からの転入含む)、平均在院日数 18.0 日

2020年度の主な入院は：

関節リウマチ 55名、全身性エリテマトーデス 43名、多発性筋炎・皮膚筋炎 24名、強皮症 23名、混合性結合組織病 10名、血管炎症候群 61名、シェーグレン症候群 7名、抗リン脂質抗体症候群10名、ベーチェット病 6名、リウマチ性多発筋痛症 14名、成人スチル病 12名、脊椎関節炎 3名、結晶誘発性滑膜炎 3名、再発性多発軟骨炎 4名、IgG4関連疾患 5名、など。

c. 学会・講演・著作その他の研究活動

【学会】

- 1 OH、高橋令子、中島俊樹、船曳正英、中窪悠登、井村嘉孝
再腎生検が有効であった SLE の一例
第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021/4/26-5/31 (Web)
- 2 高橋令子、井村嘉孝
SLE 病態形成過程での SOCS1 (suppressor of cytokine signaling 1) の関与
第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021/4/26-5/31 (Web)
- 3 西川瑠璃子、高橋令子、船曳正英、麥谷道生、大橋倫子、中窪悠登、中島俊樹、大北莉奈、伊東明香根、吉本良太、関 香織、野里聡子、北野将康、井村嘉孝
抗ウイルス薬により改善し HCV 関連血管炎による末梢神経障害の一例
第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021/4/26-5/31 (Web)
- 4 中窪悠登、高橋令子、西川瑠璃子、井村嘉孝
顕微鏡的多発血管炎の治療中に左胃動脈瘤破裂・左鎖骨下動脈狭窄といった多彩な径の血管炎症状を呈した一例
第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021/4/26-5/31 (Web)
- 5 大橋倫子、高橋令子、大北莉奈、船曳正英、中島俊樹、井村嘉孝
難治性の自己免疫病態に乳癌の関与が示唆される一例

第 49 回日本臨床免疫学会総会 2021/10/28-30 (Web) (東京)

- 6 谷口美咲、 麥谷道夫、 麻生芽亜、 小倉早奈恵、 岩木亮介、 林 綾乃、 垣田浩子、 遠藤知美、 井村嘉孝、 塚本達雄

多発性筋炎による二次性血栓性微小血管症 (TMA) に対し血漿交換 (PE) が奏効した一例

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会 2021/6/4-6 (Web) (神奈川)

【論文】

(原著論文)

- 1 Ishie S, Ito H*, ..., Nakajima T, ..., Matsuda S.
Region specificity of rheumatoid foot symptoms associated with ultrasound-detected synovitis and joint destruction.
Mod Rheumatol, 2021 Aug 31;1912905. doi: 10.1080/14397595.2021.1912905. Online ahead of print. (査読有り)
- 2 Mukoyama H, ..., Nakajima T, ..., Yoshifuji H*.
The clinical features of pulmonary artery involvement in Takayasu arteritis and its relationship with ischemic heart diseases and infection.
Arthritis Res Ther, 2021 Dec 3;23(1):293. (査読有り)
- 3 Kadoba K, Watanabe R*, ..., Nakajima T, ..., Yoshifuji H.
A susceptibility locus in the IL12B but not LILRA3 region is associated with vascular damage in Takayasu arteritis.
Sci Rep, 2021 Jul 1;11(1):13667. (査読有り)
- 4 Matsuo H*, ..., Nakajima T, ..., Fujii Y.
Positive rate and prognostic significance of the superb microvascular imaging signal in joints of rheumatoid arthritis patients in remission with normal C-reactive protein levels and erythrocyte sedimentation rates.
J Med Ultrason (2001), 2021 Jul;48(3):353-359. (査読有り)
- 5 Kimura N*, ..., Imura Y, ..., Kohsaka H.
Branched chain amino acids in the treatment of polymyositis and dermatomyositis: a phase II/III, multi-center, randomized controlled trial.
Rheumatology (Oxford). 2022 Feb 18:keac101. doi: 10.1093/rheumatology/keac101. Online ahead of print. (査読有り)

【研究】

- 1 生物学的製剤使用関節リウマチ患者の長期安全性研究 (SECURE 研究) --- 多施設共同研究 (井村嘉孝)
- 2 抗アミノアシル tRNA 合成酵素抗体測定のための OJ 抗原精製と測定系の確立 (井村嘉孝)

- 3 抗 MDA5 陽性間質性肺炎合併皮膚筋炎に対する 3 剤併用療法プロトコルの有用性と安全性の検討--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 4 広域抗菌薬使用による腸内細菌叢への影響の検討
(辻本孝平)
- 5 全身性エリテマトーデスにおける SOCS1 の役割の解明と治療への応用
(学術研究助成基金助成金 2018 年度 基盤研究 C)
(高橋令子)
- 6 ラパマイシンによる全身性エリテマトーデスの病態制御のメカニズムの解明
(高橋令子)
- 7 病気再燃防止を目的とした全身性エリテマトーデス患者の臨床像に関する観察研究
(高橋令子)
- 8 関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 (PROFILE-J)
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 9 メトトレキサート (MTX) 関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 10 メトトレキサート (MTX) 関連リンパ増殖性疾患発症予測因子の同定--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 11 リウマチ性疾患治療中に生じた COVID-19 感染症に関する研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)